

脳と心のメカニズム 第14回冬のワークショップ 脳の計算論の未来

"Future perspectives of computational brain science"

環境情報学部 3年 長野 祥大

実施概要

- 名称: 脳と心のメカニズム 第14回冬のワークショップ
- 日程: 2014年1月8(水)-10日(金)
- 場所: 北海道蛇田郡留寿都村字泉川13
- ホームページ: <http://brainmind.umin.jp/>
- ワークショップ趣旨: 「脳と心のメカニズム」ワークショップは神経科学における実験研究と理論研究のコラボレーションを目的として開催される研究会であり,加えて若手研究者の育成という側面も併せ持っている.若手育成という目的から,博士課程在籍者に限り神経回路学会による参加助成も行われている.会期中はその時々テーマに合わせて第一線で研究なさっている研究者による講演の他,参加者同士によるポスターセッションが行われる.「脳の計算論の未来 "Future perspectives of computational brain science"」と題されたテーマで神経科学の中でも特に理論系の研究に焦点が当てられている.過去三回の冬のワークショップはそれぞれ「快・不快」「脳内シミュレーション」「人の知性の進化と起源」というテーマで開催された.

参加目的

ワークショップの会期中に行われるポスター発表で自身の研究を当該分野に発信し,発表を通じた交流を行い今後の研究活動につなげる.また,計算神経科学という分野において第一線で活躍されている研究者の方々の講演を聞くことで,分野の最先端に触れる.現在の研究テーマに限らず,長期的に見て自身が専門とすべき研究領域,解決すべき課題を探りそのための足がかりを作ることを目的とする.

活動の成果

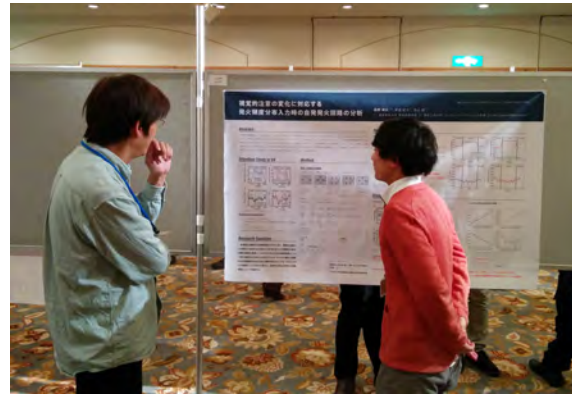
1月8日(水)から10日(金)までの3日間,脳と心のメカニズム冬のワークショップに参加した.2日目にはポスターセッションで自身の研究成果をポスターで発表した.

1. シンポジウム

本ワークショップでは、スペシャルセッション及びトピックセッションと題して3日間計9名の研究者によるトークセッションが行われた。初日は3名の研究者によるスペシャルセッションが行われ、主に計算神経科学という分野の将来について幅広いテーマでの講演であった。2日目、及び3日目のトピックセッションでは現在第一線で活躍している研究者の方々による自身の研究発表が行われた。トピックセッションではそれぞれの研究テーマについて深く議論がなされた。

2. ポスターセッション

初日と2日目に行われたポスターセッションでは、全部で66のポスター展示が行われた。その中で、「視覚的注意の変化に対応する発火頻度分布入力時の自発発火回路の分析」と題して2日目に発表を行った。ポスターセッションを通して自身の研究成果を対外的に発信することが出来た。また、研究分野の近い研究者の方や院生の方と交流することが出来た。



ポスターセッションの様子

今後の課題

本ワークショップでのポスターセッションにおいて、多くの方から研究に関する有意義なアドバイスを頂いた。また、シンポジウムを通して興味深いテーマや概念に触れ、当該分野への理解を深めることが出来た。現在行っている視覚的注意に関する研究は未だ発展途上の段階にあり、近接分野の研究者との交流が必要であると考えられる。本ワークショップで得られた交流や知見を活かして、研究をより実りのあるものにしていきたい。

おわりに

本ワークショップ参加にあたり、多くの方にご協力を頂いた。ここに心より感謝の意を表す。特に、指導いただいた青山敦先生、渡邊紀文先生をはじめ、研究に関して多くのアドバイスをしていただいた東京大学生産技術研究所 岩山幸治氏に感謝する。なお、本ワークショップには慶應義塾大学湘南藤沢学会の助成を受けて参加した。このような機会を手助けいただいた事に対し、合わせてここで感謝する。